



## 防火防災功労賞受賞記念 「共助」「近助」による災害に強い まちづくり



東京都町田市 玉川学園町内会  
防犯防災部長 島倉 正美

### 1 はじめに

玉川学園町内会と傘下の自主防災隊が防災活動に取り組んでいる地域は、町田市の小田急線玉川学園前駅を中心に南北に広がる地域です。地域の人口は約18,000人、約9,000世帯です。会員数約3,700世帯の町内会は8つの地区から成り、それぞれの地区に自主防災隊が組織されています。この地域は多摩丘陵地で坂道や狭い道路が多いため消防などによる消火・救助活動の妨げになっています。そこで「自分たちの町は自分たちで守る」をスローガンに「公助」に頼らない「共助」「近助」による地域防災に力を入れています。

### 2 防災の備え

「共助」「近助」を支えるために、それぞれの地区で一時集合場所（公園など）を指定し、そこに防災資機材を格納する防災倉庫を設置し、街頭にも「スタンドパイプボックス」を複数箇所設置しています。また、毎年、消火器販売業者を紹介し消火器の普及や期限切れ消火器の交換を進めています。更に、AEDボックスを地域の会館に設置するなど、防災資機材の充実に努めています。

### 3 共助・近助による防災活動

9年ほど前に始めた「我が家は無事です」を示す白いタオル出し運動は、どこの家庭にもある白っぽいタオルを使うことで災害発生時の混乱でも出しやすいもの、暗闇でも比較的に見やすい白っぽいものと工夫

されています。この運動も町内の他の地区に広がり現在ではほとんどの地区で実施されています。この運動では白いタオルが出ていないお宅に声掛けて運動へのご協力をお願いしています。更に、年2回の実施や役員による安否確認に加え隣近所で安否を確認し合う取り組みも始まっています。このように白いタオル出し運動は、「近助」を進める上でも大切な役割を果たしています。



みんなの防災フェア

高齢者が多い地域ですが、代替わりが進む地区もあり、家族連れでも楽しめる取り組みを中心に若い世代から高齢者までを対象にした防災活動を行っています。

ある地区では、防災訓練を「みんなの防災フェア」と名付け、ゲーム感覚で楽しみながら防災を学び、体験できる防災訓練を行っています。フェアでは、放水し火元に見立てた手作りの的を倒す「スタンドパイプ放水的当て大会」、参加者数人がチームになり、声掛けや安全確認、通報、10分間交替で行う心臓マッサージ（胸骨圧迫）とAED操作を繰り返す「AED心肺蘇生コンテスト」、「火事だ！」の発声から消火器を持って火元に近づき消火する「初期消火コンテスト」、「火事だ！」の発声をスマホのアプリで測定する「大声コンテスト」、手作りの防災カードで競技し、参加

者の議論の活発さも判定する「防災カードゲーム」などが毎年一部の組み合わせを変えて行われています。これらの競技で使う採点表も手作りです。競技前に消防署員の模範演技や採点方法の説明があります。

いつでも、どこでも、手軽にスタンドパイプの装着訓練が出来るようにと訓練用の消火栓ボックスを自作し、雨天時の訓練や集会などでスタンドパイプの取り扱い説明に活用しています。

町内会が主催する自主防災隊長会議により8つの自主防災隊との連携を図っています。自主防災隊長会議では隊員の防災力強化の為、活動班ごとに研修（講話・訓練・地域検分など）を行っています。一般に行われている訓練の他に「災害時協力井戸めぐり」では、地域の十数箇所の災害時協力井戸を巡り、オーナーの住人から井戸の状態や普段の使い方や管理上の話を聞いています。

小学校で実施している総合防災訓練を、避難所としての役割や在宅避難の必要性を理解してもらう場に変えました。

地域の児童館、幼稚園、保育園の合同防災訓練では、町内会・自主防災隊も準備段階から参加して防災訓練の実施方法や日頃の防災対策を協議しています。防災訓練では、発災直後の身を守る動作を学んだり、園児が先生と一緒に園内の安全点検を行ったりしています。

#### 4 コロナ禍以降の防災活動

コロナ禍の令和2年は、地域住民も家に閉じこもっている状況の中で防災月間を定めて「防災アンケート」と「在宅でできる防災訓練」を総合防災訓練の代わりに実施しました。防災アンケート結果を受けて、各家庭の防災対策が不十分であることが分かり令和3年は「おうちで防災訓練」と名称を変えて家族会議・安全対策・備えを中

心に「東京防災学習セミナー・オンライン」と組み合わせて実施、今年（令和4年）は、「おうちで防災訓練」を3つの小・中学校と連携して実施しています。

コロナ禍でも、継続性が求められる安否確認（白いタオル出し）訓練や地区の防災訓練は、実施方法を工夫して実施しています。

#### 5 今後の活動と課題

これまでも、防災行事や町内会ホームページ・機関紙を通じて防災についての啓発活動を行ってまいりましたが、防災アンケートから不十分との結果を踏まえて、更なる高揚と啓発の為、町内会ホームページのリニューアルを機に発信力の強化を予定しています。

一方、防災アンケートから平日の日中独居世帯が7割以上にのぼることが判明し、この時間帯に発災したときの人員確保が課題となっています。

